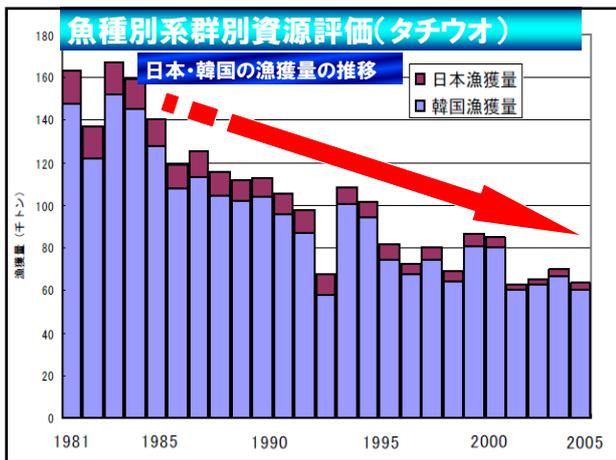
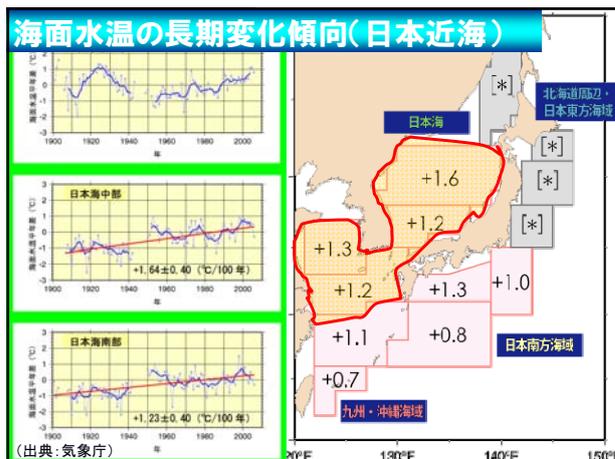


資料3







### 環日本海地域の環境問題

- ✓ タンカーの座礁等に伴う石油流出汚染
- ✓ 中国黄海、韓国沿岸の赤潮・プランクトンの異常繁殖（HAB）→養殖業に被害
- ✓ 化学物質（難分解性物質（POPs）、環境ホルモン）
- ✓ 中国でのe-WESTを含む廃棄物不適正処理問題
- ✓ 海洋ごみ（漂流・漂着ごみ）被害
- ✓ 地球温暖化の影響
- ✓ 過剰漁獲による水産資源の減少
- ✓ 自然海岸の減少、沿岸生態系の劣化

①これら環境問題の原因は？

人間の活動が深く関与

②沿岸諸国との関係は？

海洋環境問題を共有

いま我々は

環境共同体の形成が必要！

## II NPECの取組み



**NPECとは**

Photo by Yukihiro OTSUKA  
Yukihiro OTSUKA © [海の写真館]より抜粋

### センターの歩み



- 1997年4月 「環日本海環境協力センター」を設立
- 1998年9月 環境省から「財団法人 環日本海環境協力センター」として設立許可
- 1999年4月 北西太平洋地域海行動計画 (NOWPAP) 政府間委員会において、「特殊モニタリング・沿岸環境評価地域活動センター」に指定

**財団法人 環日本海環境協力センター**  
Northwest Pacific Region Environmental Cooperation Center

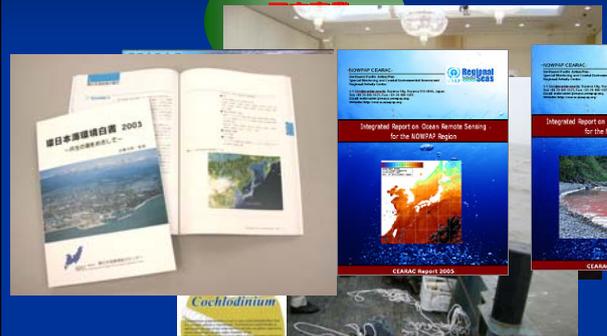
## 環日本海環境協力センターは、

- 何を目標して？  
環日本海の環境保全に貢献するため、
- 誰と？  
国連、政府、自治体等と連携・協力して、
- 何をしている？  
環境調査事業、NOWPAP事業等の各種事業を展開しています。

## NPECの各種事業

環日本海の環境保全のため、国連、政府、自治体と連携・協力して各種事業を展開！

**環境調査**




海辺の漂着物調査のきっかけは・・・

[提供: Yukihiro OTSUKA ©]

## 海辺の漂着物調査のねらい

<着眼点>  
国連条約による国際共同調査と並行しての解決には、**海辺の漂着物調査の実施**と同時進行することが必要不可欠である。

<課題等>

- ① 食糧と沿岸域の保全・管理は、同一場・同一人及び沿岸諸国等との互恵的な連携・協力体制の構築が必要である。  
「(海洋)環境問題は知っているだけでは何も変わらない。  
⇒ **人材育成及び環境教育の推進**」  
⇒ ショーンとしての共有する「**キャリア**」から」
- ② 海洋のこの問題は多岐に、かつ複雑な環境問題である。  
⇒ **草の根的な連携・協力体制の構築**

### 漂着物調査イメージ

① 調査区画を設定しましょう。  
② 漂着物を拾い集めましょう。  
③ 漂着物を区分けしましょう。  
④ 漂着物の重量・個数を測り、表に記入しましょう。

※ 調査方法は、JEMクリーンアップ全国事務局によるものも参考にしています。

### 埋没物調査イメージ

① よし、がんばってまわすぞ！  
② 何が入っているのかな？  
あっ！アサギの破片がでてきたよ！

埋没物調査の採取手順

### 海辺の漂着物調査(1996年～)

【1996年度調査規模】

参加国 : 日本  
参加人数 : 延べ548人  
自治体数 : 10自治体  
調査海岸数: 16地点

【2006年度調査規模】

参加国 : 日本、中国、韓国、ロシア  
参加人数 : 延べ2,820人  
自治体数 : 32自治体  
調査海岸数: 71地点

年	自治体数	海岸数	参加人数
1996	10	16	548
1997	12	25	1268
1998	15	30	957
1999	18	35	851
2000	20	40	831
2001	25	45	1065
2002	30	50	1346
2003	35	55	1620
2004	40	60	1864
2005	45	65	2689
2006	32	71	2820

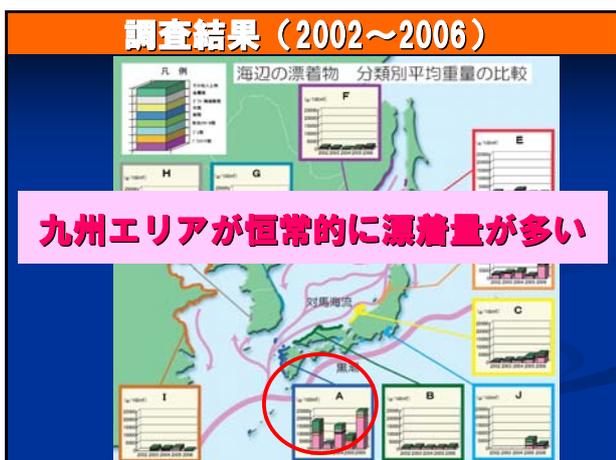


### 漂着物調査結果(2006)

【平均重量: 約5.9kg/100m<sup>2</sup>】

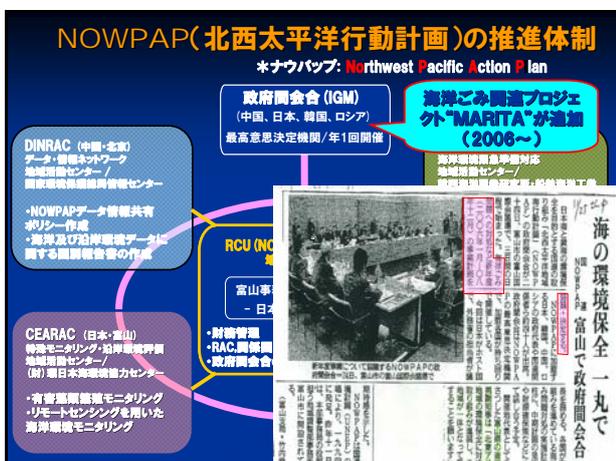
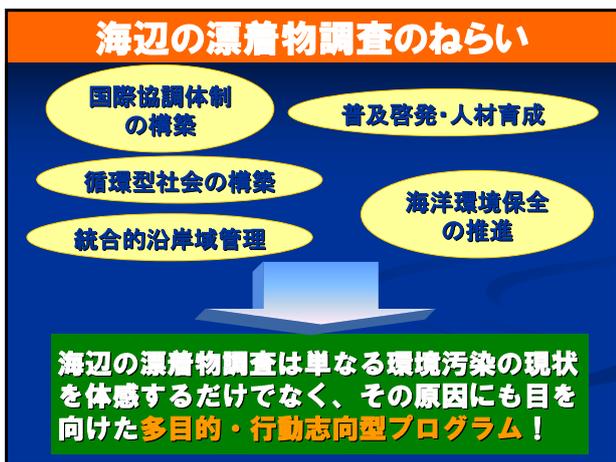
500mlのペットボトルに換算すると  
5,900g/100m<sup>2</sup> ÷ 30g/本  
= 200本/100m<sup>2</sup>

品名	重量 (g)	割合 (%)
プラスチック類	3,988	68%
その他の人工物	549	9%
ガラス・陶磁器類	394	7%
布類	135	2%
紙類	34	1%
発泡スチロール類	290	5%
ゴム類	291	5%
金属類	202	3%



### 海辺の漂着物調査の事業効果

	区分	事業効果
調査活動から得られること (Process)	環境教育	市民への普及啓発
	海岸清掃手法の平準化	海洋ごみの削減 共通意識の醸成 精度管理・政策評価
	NOWPAP連携	国際プロジェクト化・継続化
調査結果から得られること (Result)	実態把握	科学的知見の集積・分析
	結果発表 (国際会議、論文、マスコミなど)	知見の共有 政策立案への反映 発生源対策



- ### NOWPAP MALITAとは
- 経緯等  
2005年11月開催の『第10回NOWPAP政府間委員会』において、海洋ごみ関連活動(MALITA)が新しいプロジェクトとして承認
  - 目標  
海洋ごみ問題に関するNOWPAP地域行動計画の構築
  - 主なプロジェクト
    - ・海洋ごみ問題に対処する長期的な戦略の構築
    - ・市民団体(企業やNGO、科学界など)との協力体制の構築
    - ・**長期的なモニタリングプログラムの作成&実施**
    - ・海洋ごみ問題への意識向上及び教育キャンペーンの計画・実施
    - ・海洋ごみ問題に関する国際会議の開催
    - ・海洋ごみ管理に向けた分野別ガイドラインの作成
    - ・廃棄物管理施策及びシステムの構築・改良する



### 問題解決のマトリックス表 事業成果

区分	課題	対策	具体事業
海洋ごみ問題解決に向けて	<ul style="list-style-type: none"> <li>処理費用の確保（海岸、海中、海底ごみ）</li> <li>処理体制（制度）の整備及び構築</li> <li>回収したものは埋立処分</li> <li>モニタリング手法・体制の確立</li> <li>海洋ごみ情報の管理</li> <li>沿岸の管理・利用の確保</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>モニタリング</li> <li>継続的モニタリング体制の整備・構築</li> <li>回収処理技術・手法の開発</li> <li>統合的な海洋・沿岸管理制度の整備</li> <li>情報基盤の整備・提供</li> <li>etc</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>NOWPAPモニタリングガイドラインの策定</li> <li>政府・NOWPAP報告書に採用</li> <li>海洋モニタリングの実施（次年度の調査調査の実施）</li> <li>出前講座、マシモ報道</li> <li>NOWPAPMALITAの実施</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>発生源・経路が複雑で多岐（※陸上活動から多数、一部地域では国外からも発生）</li> <li>発生抑制策の不備</li> <li>市民、関係者が問題を正しく認識・理解していない</li> <li>CSRへ海洋ごみ問題が組み込まれていない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>発生源の特定及び対策実施（発生規制等）</li> <li>海洋環境に優しい製品開発</li> <li>市民等への普及啓発</li> <li>環境教育・協働ツールの開発・推進</li> <li>国際的枠組みでの事業展開</li> <li>陸上の3R推進活動への組入れ</li> </ul>	

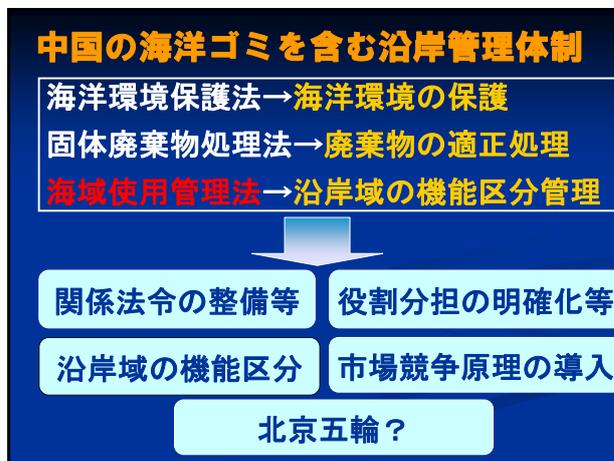
### 問題解決のマトリックス表

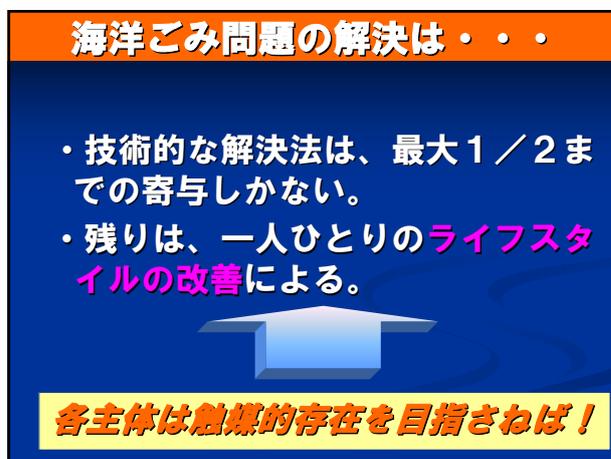
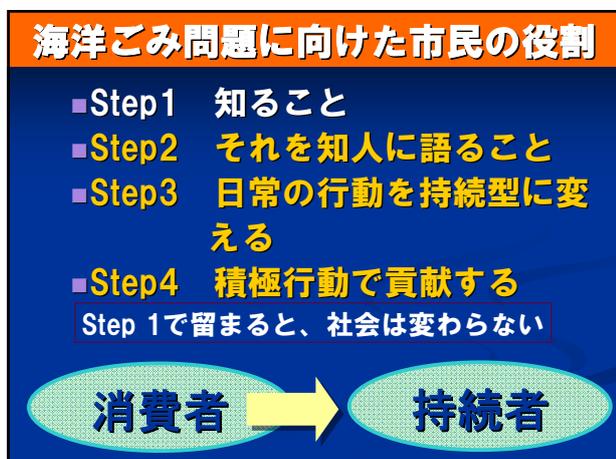
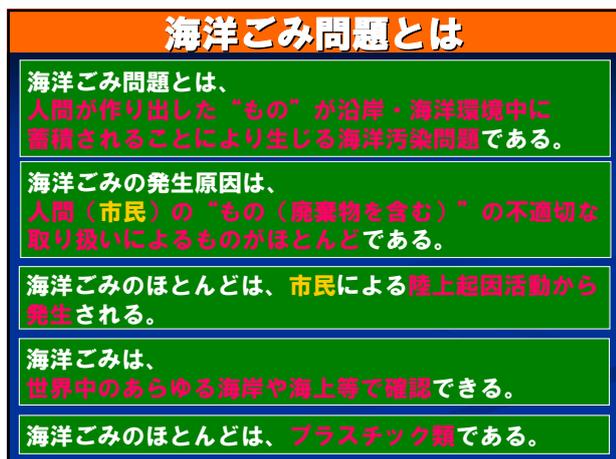
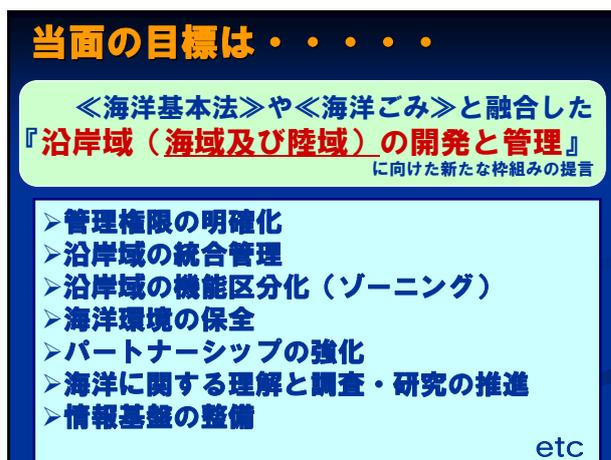
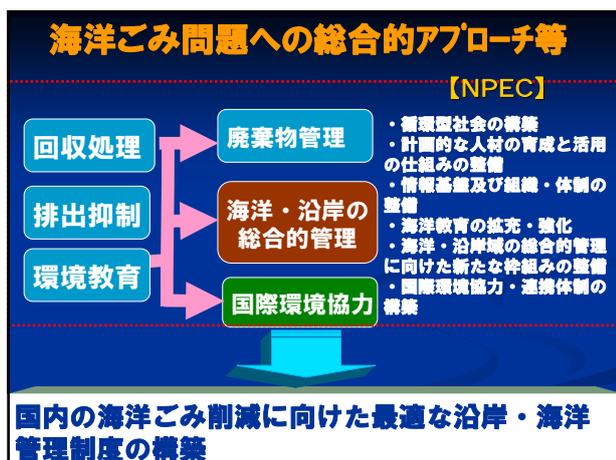
区分	対策	その他具体事業
海洋ごみ問題解決に向けて	<ul style="list-style-type: none"> <li>モニタリング手法の開発</li> <li>継続的モニタリング体制の整備及び構築</li> <li>回収処理技術・手法の開発</li> <li>情報基盤の整備・提供</li> <li>統合的な海洋・沿岸管理制度の整備</li> <li>etc</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>NOWPAP海洋ごみモニタリングガイドライン作成支援</li> <li>海洋ごみポータルサイトの構築（H20～H21※予定）</li> <li>海洋ごみリサイクル可能性調査の実施（H18）</li> <li>離島における海洋ごみ被害状況調査の実施及びマニュアル策定（H19～H20）</li> <li>中国・韓国における「沿岸・海洋管理」制度等に関する実態調査（H19～H20）</li> <li>海洋ごみ削減対策検討会の開催（H19～）</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>発生源の特定及び対策実施（発生規制等）</li> <li>海洋環境に優しい製品開発</li> <li>市民等への普及啓発</li> <li>環境教育・協働ツールの開発・推進</li> <li>国際的枠組みでの事業展開</li> <li>陸上の3R推進活動への組入れ</li> <li>etc</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>海洋ごみポータルサイトの構築（H20～H21※予定）</li> <li>普及啓発パンフレットの作成・配布</li> <li>出前講座の実施</li> <li>情報交換会・講習会の開催</li> <li>NOWPAP支援</li> </ul>



### 出張スケジュール(7泊8日)

日程	旅程	訪問先及びヒアリング内容等
2007/09/06	富山→大連市	・海岸視察
2007/09/07	大連市	・大連市環境保護局 ・大連市環境保全ボランティア協会 ・国家海洋環境モニタリングセンター(SOA) ・海岸視察
2007/09/08	大連市→煙台市	・海岸視察
2007/09/09	煙台市	・煙台市海岸視察
2007/09/10	煙台市→北京市	・煙台市海洋漁業局、環境保護局 ・煙台市医療系廃棄物等処理状況視察
2007/09/11	北京市	・清華大学 ・清華大学内病院 ・全人代国務院環境資源保護委員会
2007/09/12	北京市	・ダム管理状況視察等
2007/09/13	北京→富山	—







ありがとうございました.....

OISUKA